

第1回彦根市スポーツ推進計画策定委員会 会議録要旨

【日 時】平成28年8月5日（金）14:00～16:00

【場 所】彦根市民会館 第3会議室

【出席者】別紙名簿のとおり

1. あいさつ

[教育長]

間もなくブラジルのリオデジャネイロでオリンピックが開幕するが、本市出身の桐生祥秀選手が陸上競技男子 100メートルに出場することになり、ぜひ市民の皆さまと共に応援したい。また、4年後の2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることになり、スポーツに関わる情報が連日伝わってきている。

平成23年に制定された「スポーツ基本法」の前文は「スポーツは世界共通の人類の文化である」という書き出しで始まっており、国全体でスポーツへの関心が高まっていると感じる。

「スポーツ」と一言と言っても、自らがするスポーツ、大会観戦などで見るスポーツ、アスリートを支えるスポーツといった多様な側面がある。市民が日常生活の中で、様々な形でスポーツに親しみ楽しんでいただけるよう、本市としても一層のスポーツの推進を図っていきたい。

彦根市を取り巻く状況として、2021年に世界的な生涯スポーツの祭典であるワールドマスターズゲームズが関西で開催され、2024年に国民体育大会・全国障害者スポーツ大会が滋賀県で開催されることが決まっており、これからの約10年間に大きな大会が目白押しとなっている。特に2024年の国民体育大会では、その主会場に県立彦根総合運動場が決定したことから、これらの大会はスポーツ意識高揚の絶好のチャンスであると捉えている。

彦根のスポーツ推進については、市の全分野での方向性を定めた彦根市総合計画に基づいて取組を進めているが、本市が目指すスポーツ推進の指針となる、より具体的な計画が必要である。

本市にとっては初めてのスポーツに関する計画づくりになるが、現状把握や課題の整理、市民のニーズなどを踏まえ、専門的かつ大局的な見地での検討を願いながら、市民と共に計画策定に取り組んでいきたいと考え、このような策定委員会を設置することとなった。

委員には、年度末の計画策定に向け度重ねてご検討いただくことになるが、それぞれのお立場から活発な協議をお願い申し上げる。

2. 委員紹介

3. 委員長および副委員長の選出

[事務局]

委員長の選出方法は、要綱の第5条第1項の規定により、委員の互選となっている。

[委員]

小田柿委員を推薦する。

[事務局]

委員から、委員長に小田柿委員を推薦する発言があったが、よろしいか。
(異議なしの声)

[事務局]

異議がないようなので、委員長は小田柿委員にお願いします。
続いて副委員長の選出をお諮りする。副委員長の選出方法は、同じく要綱の規定により、委員の互選となっている。

[委員]

川合委員にお願いしたい。

[事務局]

委員から、副委員長を川合委員に推薦する発言があったが、よろしいか。
(異議なしの声)

[事務局]

異議がないようなので、副委員長は川合委員にお願いします。

[委員長]

スポーツに関しての私の思いと願いを伝えさせていただき、これからのスポーツに関する政策を総合的かつ計画的に推進する内容にしたいと思っている。

スポーツの意義や価値は、心身ともに健康になれるということであり、あらゆる年齢層で極めて重要な課題である。

心身を鍛えるとともに、仲間づくりやふれ合いを通じて、社会性をより豊かにするということがスポーツの意義として挙げられるかと思う。豊かな生活を創造していく上で、スポーツはかけがえのないものであり、人類の大きな文化であるという捉え方ができる。そういったスポーツをもう一度考え直し、こういった場で、より振興していくという思いの議論を高め、充実したものに作り上げることができればと思う。

現在の日本および彦根市の状況を鑑みても、郷土の代表がオリンピックに出場することが少なかったが、桐生祥秀選手はメダルに届くとも言われており、本当に楽しみな状況になっている。さらに4年後に東京オリンピックが開催され、続く国体では全国のアスリートを迎え、全国障害者スポーツ大会も彦根市の大きなイベントとして予定されている。

スポーツに対して市民の関心が高い時期に、これからの彦根市のスポーツと文化を振興する計画の委員に選ばれた重責を感じている。より豊かで活力ある彦根市のスポーツを振興するため、委員のご協力を賜りたい。

[事務局]

規定により、これからの議事進行については小田柿委員長にお願いします。

4. 議事

(1) 委員会公開要領について

資料 No. 4 説明

[委員長]

スポーツ推進計画については、中長期計画という視点から彦根市の計画を推進していく方向を明らかにするという事なので、本委員会で論議された内容は広く公開し、市民と共に進め

ていくことも大事になる。傍聴の機会を設けるとともに会議録の公開をし、要領に基づいて実施していくということでしょうか。

(意見等なし)

(2) 委員会の運営およびスケジュールについて

資料 No. 5 説明

[委員長]

来年3月にはパブリックコメントが出るので、それまでに策定をしたいという計画だが、ご意見、ご質問はあるか。

[副委員長]

最後にパブリックコメントをするようだが、意見反映などの検討期間はあるのか。

[事務局]

当委員会で議論をしていただく経緯もあるので、場合によってはご意見を伺うということもあるが、基本的には教育委員会の方で修正および対応をさせていただく予定である。

[委員長]

パブリックコメント後に検証の会合は持たないのか。

[事務局]

市の各計画は概ねパブリックコメントを実施するが、策定委員会を開いている期間中にパブリックコメントを実施し、それを策定委員会の方に返して、もう一度議論いただくという形と、市あるいは教育委員会の方で最終的にパブリックコメントをさせていただく形と2パターンあるが、今回のスケジュールでは後者の形を考えている。スケジュールや進行具合によって変更があるかもしれない。

[委員長]

パブリックコメントに関わらず、計画の進捗状況の中で、ご意見、ご質問はあるか。

[委員]

当委員会と庁内推進委員会との兼ね合いはどうなっているのか。

[事務局]

本日の策定委員会が先行している状況である。今後、当委員会の議論の資料として庁内の状況を伝えていくことも必要になるので、併せて庁内の推進委員会を立ち上げていきたい。

教育委員会保健体育課が事務局を持っているが、スポーツ推進計画の中で位置づける内容の全ての部分を受けもっているわけではなく、市長部局内の福祉や産業関係との連携もスポーツで関わってくる。庁内推進委員会での議論を整理し、策定委員会に諮っていきたい。

[委員]

庁内推進委員会は、既に組織化されているのか。

[事務局]

スポーツに関わっている関係課のピックアップはしているが、漏れている部分があるといけないので、全庁的に照会をかけた上でメンバーを固めていきたい。

[委員]

庁内横断的なプロジェクトチームが委員会になるのか。

[事務局]

そのとおりである。

[委員長]

来年明けまでに推進計画を策定することになり、論議に時間をかけると計画が間に合わないということも起こり得る。委員には年内に数回お集まりいただいて検討していただくことになるが、ご協力をお願い申し上げます。

(3) スポーツ推進計画策定の背景

資料 No. 6 説明

[委員長]

計画策定の背景ということで、国のスポーツ基本計画から県の推進計画等の説明をいただいた。

事務局は、市の総合計画とのマッチングなどはどのように考えているのか。

[事務局]

現在、彦根市の総合計画がスポーツに関する取組の柱だが、市全体としては、総合計画が上位計画であり、その下に各分野別計画がぶら下がっていることになるので、スポーツ推進計画を策定するにあたり、市の総合計画との整合性を考えていく必要がある。

総合計画は年度明けに最終見直しされている。次回に提示をさせていただく。スポーツ推進計画は、市の方向性も見た上で、よりスポーツ施策に特化した計画という位置付けになる。

[委員長]

スポーツ推進計画で策定されたものが、総合計画の方に反映されるということはあるのか。

[事務局]

総合計画は5年間の計画となっている。1年ごとの取組の見直しはあると思うが、計画自体の見直しは5年後になる。

[委員長]

当計画の見直しも5年後ということか。

[事務局]

前期・後期という形で計画をつくっている地域が多いが、国民体育大会を8年後に控えている彦根市にとって、どのスパンを計画期間にするのがよいのかは次回の策定委員会で検討いただきたい。

[委員長]

社会の変化が著しい中で、10年間という計画スパンが適切かどうかは大きな課題になる。

[委員]

当計画は滋賀県のスポーツ推進計画に準拠した形を考えているのか。

[事務局]

滋賀県スポーツ推進計画の資料は、あくまでも参考ということで提示させていただいている。

滋賀県のスポーツ推進計画に準拠してという定めはないが、国の指針では「地域の実情に応じた」と書かれており、正反対の方向ということはないと考える。滋賀県全体の計画に比べて、いかに彦根市の特色を生かした計画にできるかがポイントになってくる。

[委員長]

事務局から県の計画を一つの手本として示されたが、彦根市らしさや特色を生かすことは大

きな願いであるし、大事にしていきたい。

スポーツは大きな文化であり、まちづくりに大きな効果をもたらすものである。そのためには、様々な団体や組織の協力がなければ実効性のあるものにならない。行政サイドで、より広く実施するように働きかけをして、いい動きができるようお願い申し上げます。

(4) 彦根市のスポーツに関する現況

資料 No. 7 説明

[委員長]

事務局から示されたデータに関して、ご質問、ご意見を求める。

[委員]

全4回の委員会で策定を間に合わせるため、数値に対するコメントを加える等、もう少しわかりやすい効果的な資料を出していただきたい。

[委員長]

数字だけでは分かりにくいので、グラフ化をするなど受け止めやすいようお願いしたい。

施設や環境は、果たして市民として満足のいく質と量になっているのか。さまざまなスポーツ機会をつくっていただいているが、市のスポーツ推進委員協議会に開催していただいているものもある。そういうものをもっとPRして、多くの方々に参加してもらっているのかどうか。それらを数値データと照らし合わせて分析する必要がある。

[委員]

スポーツ推進委員協議会で実施している、ふれあいグラウンド・ゴルフ交流会は、参加者の3分の2が高齢者。ひこねスーパーカラム大会、ファミバド交流会は、小学生から高齢者までの幅広い参加がある。ただし、いずれも常連が多く初参加者が少ないので、裾野を広げる努力をしている。

[委員長]

体育協会では、全国や地域のスポーツで好成績を収めた方々を表彰しているが、県民体育大会での彦根市の成績はどうか。

[委員]

大津市に続き県内2位を目標にしているが、近年は草津などに迫られている。

[委員長]

全国レベルで見ると、彦根市出身の、陸上短距離の桐生祥秀選手がオリンピックに出場するなど活躍してくれている。他にもアジア大会出場選手や、水泳でも全国レベルで決勝に残っている選手もおり、そういった活躍が小中学生の刺激になり、スポーツが盛んになっていけばと思う。

[委員]

障害者スポーツについて、滋賀県の他の市町に比べて、彦根市から全国レベルの大会への参加者は非常に少ないのが現状である。

[委員長]

障害者スポーツに関わる現況、データを次回までに事務局は提示いただきたい。

[副委員長]

小中学生の体力テストの結果、傾向についてはどうか。

[委員]

全体的に持久力が弱い傾向が見られる。中学校では全校生徒を対象に体力テストを毎年行い、データを集めて検証を行い、補強運動を入れるなど体育主任が集まり強化計画を立案、実施している。小学校も休み時間を使っての運動を奨励している。

[委員長]

その成果はどうなっているのか。

[委員]

現在のところは、まだ各校で取り組んでいる状況である。

[委員長]

スポーツは小中学校から力をつけて、目標値を挙げて取り組んでいくことが必要である。

(5) 市民等意識調査の実施について

資料 No. 8、9、10 説明

[委員長]

調査票を見られたばかりなので、後日意見があれば反映できるのか。

[事務局]

お気付きの点があれば、10日までに事務局の方へご連絡をいただきたい。いただいたご意見も反映させて調査を実施する。

(6) その他

[委員長]

本日の協議で、その他の意見があるか。

[委員]

障害者のスポーツ参加率向上策も本会議で検討願いたい。

[委員長]

事務局の方からの連絡事項はないか。

[事務局]

今回は、市民の意識調査の集計を出したうえで開催したいので、別途日程調整させていただく。

本日は長時間にわたり、ご審議賜り感謝申し上げます。

委員の皆様には、今後いろいろとお力添えをお願いするが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。